

産洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・産洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診 察 日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00、

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel: 058-295-9545

FAX: 058-296-3903

E-mail: zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第113号 2013.8.1.

毎月1回発行 産洞診療所 松井英介



韓国原爆2世

ハン ジョンソン

韓 正淳さんの話

松井英介

「若い頃に子宮に腫瘍ができて子どもを胸に抱いたことがない患友、流産しつづけて出産経験のない患友、赤ちゃんを胸に抱いても知的障害で童話の本1冊も読んでもあげられない患友、生まれた時は元気でも成長過程で精神疾患を患って入院している患友、各種の癌によって40~50代で死亡する患友も大勢います」。

これは、1959年1月韓国慶尚南道陝川で、被爆2世として生まれた正淳さんの話です。患友とは、被爆2世患者会のメンバー。正淳さんの母は、1945年8月6日広島に住んでいて爆心から少し離れたところで被爆。当時妊娠中だった兄は幼くして亡くなり、韓国に帰ってから5人の子どもに恵まれましたが、その子たちはそれぞれ病を抱え、苦痛に満ちた人生を送っています。正淳さん自身、大腿部無血性骨頭壊死症で歩けなくなり、両脚に人工関節を移植する手術をすでに二回受け、近々三度目の手術を受けなければなりません。また彼女が生んだ最初の子は、先天性脳性マヒでした。いっそ息子と一緒に死んでしまいたいと思い、泣いてばかりいたそうです。

正淳さんは、2013年7月20日（土）と21日（日）東京で開かれた「原発を問う民衆法廷」で、苦難に満ちた、同時にドラマティックな勇気あふれる闘いの半生を、美しい響きのハンデルで語りました。彼女は今、韓国原爆2世患友会の第3代会長として活躍しています。

「韓国原爆2世患友は、日本帝国主義の侵略戦争と、大量殺人兵器である核兵器を投下した米国政府による戦争犯罪の被害者です」。「広島での原爆投下から68年が過ぎました。数十年の歳月が流れる間、核による被害者は今でも増え続けています。2011年の福島原発事故にあたり、私たちは涙を流しました。韓国では、原発の近くで暮らしてきた家族全員が病気に苦しんでいる、ある家族の記者会見がありました。韓国政府は原発が安全だと言います。ウソです。私たち「韓国原爆2世患友会」がその証拠です」。「現在、慶尚南道は原爆2世患友に対する実態調査を行っています。また、原爆被害者1世はもちろん、2世や3世を支援する内容を含んだ特別法案を国会に提出しました」。

これら正淳さんの発言に、私は目からウロコの想いでした。私たちが学ばなければならないことがあまりにも多いからです。正淳さんの意見陳述全文は、次のwebsiteでぜひ！

<http://echochanges-echochanges.blogspot.jp/2013/07/10ochlos.html>

写真：韓正淳さん 第10回東京最終法廷にて